

## 2024（令和6）年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業

2025/02/26

一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

## 【事業内容】

事業名	令和6年度入退院支援連携デザイン事業
実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
事業目標（具体的な推進の方向性等）	
<p>この事業は、市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を支援するため、医療と介護の連携にかかる人材の育成、資質向上、入院前から入院中、退院後も含めたシームレスな入退院支援連携、また在宅医療と介護の連携体制の構築に向けて次を目標とし、取組を推進する。</p> <p>(1) 医療と介護の連携にかかる人材の育成、資質向上</p> <p>(2) 高齢者一人ひとりの身体的・心理的・社会的状況を十分に把握し、入院前から入院中、退院後も含めたシームレスな入退院支援連携体制の構築</p> <p>(3) 入退院支援連携に係る在宅医療と介護の連携体制の構築に向けた取組の推進</p>	
事業内容（予定している取組内容）	
<p>(1) 「<u>沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得</u>」の普及啓発</p> <p>令和5年度に策定した「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」漫画・動画を活用し、住民・関係機関等へ周知広報を行い、普及啓発を図る。</p> <p>1) <u>小規模離島市町村等での一般住民等向け説明会：1回</u></p> <p>テーマ：「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得～本人・家族へのお願い～まんがでわかる入退院支援の心得～」について</p> <p>目的：一般住民を対象にした「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」漫画・動画を活用し、小規模離島市町村・医療機関と協働し、普及啓発モデルを実施する。</p> <p>開催時期：令和6（2024）年11月20日（水）13:30～15:00</p> <p>場所：伊江村役場住民課・伊江村地域包括支援センター</p> <p>方法：対面・（ハイブリット）</p> <p>講師：県MSW協会</p> <p>対象：地区医師会に在宅医療・介護連携推進事業を委託していない小規模離島等市町村（伊江村・伊平屋村・伊是名村・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・久米島町・宮古島市・多良間村・石垣市・竹富町・南大東村・北大東村・与那国町）の一般住民、市町村職員、地区医師会コーディネーター、医療機関、関係機関（地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、居宅介護支援事業所等）、介護支援専門員、その他専門職等</p> <p>参加人数：38名</p> <p>(2) <u>入退院支援連携やその他在宅医療・介護連携の推進に資する研修等の実施</u></p> <p>本人の意思を尊重した入退院支援と療養生活の実現に向け、医療介護専門職人材の育</p>	

成・資質向上のための研修等を実施する。

なお、実施にあたっては、以下に掲げる事項をコンセプトとし、委託者と協議のうえ実施内容を決定する。(1回)

①円滑な入退院支援連携を実施するうえで、共通して必要となる知識・技能の習得

②小規模離島町村における入退院支援連携の体制構築のための支援(事例検討や意見交換等)

③その他多職種協働で医療・介護連携支援を推進するために必要な知識の習得(テーマ例:身寄り問題)

#### 1) 多職種研修: 1回

目的: 医療と介護の連携に係る入退院支援に関わる専門職の資質向上を目指し、「本人の意思を尊重した入退院支援と療養生活の実現」について学ぶ。

開催時期: 令和6(2024)年10月30日(水) 19:00~21:00

方法: オンライン(ZOOM)

対象: 入退院支援連携に関わる医療・介護の専門職、市町村及び地域包括支援センターの職員等

参加人数: 281名

テーマ: 身元保証人がいない人でも入院・入所できる病院・施設~組織・地域での支援体制構築を見据えて~

講師: 新潟県魚沼市社会福祉協議会 地域福祉課 課長 佐藤 直樹 氏

「魚沼市における身よりのない人への支援に関するガイドライン作成の取り組み~策定までのプロセスと現在の課題~」

#### (3) 市町村・関係職種・医療機関等へのアンケート・ヒヤリング調査、「身寄り問題」ガイドライン案作成

令和5年度の医療機関・介護保険施設を対象にした結果のまとめと共に、令和6年度は在宅サービス事業所・市町村等を対象に調査を行い、「身よりのない人への支援ガイドライン」案を作成する。

目的: 市町村における在宅医療と介護の連携推進事業に関する課題等を全体で共有し、今後の市町村支援や地域包括ケアシステムの構築へ資する。

テーマ: 市町村における入退院支援連携の課題(テーマ:身寄り問題)

対象: 市町村・関係職種等

期間: 4~6月 アンケート調査、ヒヤリング、まとめ

7~9月 ワーキンググループ、まとめ

10月16日 第1回ガイドライン案作成委員会

2月7日 第2回ガイドライン案作成委員会

2月19日 第3回ガイドライン案作成委員会

調査方法: Google Form、ZOOM、インタビュー

身寄り問題アンケート調査会議、ヒヤリング会議、ガイドライン案作成委員会、ワーキン

グループ会議等の当事者、保健・医療・福祉・介護等専門職、弁護士、行政担当者等で構成する委員会で検討する。

※アンケート結果：

・実施時期：2023(令和5)年3月配信、2024(令和6)年3月回収締切 2024(令和6)5月配信、2024(令和6)年6月回収締切

・実施方法：グループフォーム 一部郵送と県地域包括ケア推進課等からメール配信、回収

・調査対象：2023年度：775ヶ所 病院(89)、老人福祉施設(79)、老人保健施設(43)、有料老人ホーム(564) ・2024年度：1,115ヶ所 居宅介護支援事業所(498)、訪問看護ステーション(107)、地域包括支援センター(98)、障害者相談支援事業所(247)、行政(市町村在宅医療・介護連携推進主管課・生活保護課・障害福祉課：各41)、県・市町村社会福祉協議会(42)、等

・調査回収結果：

・2023年度回収状況 回収数：計105ヶ所 回収率：13.5% 病院63、老人福祉施設0、老人保健施設2、有料老人ホーム40

・2024年度回収状況 回収数：計189ヶ所 回収率：17.0% 居宅介護支援事業所65、訪問看護ステーション22、地域包括支援センター34、障害者相談支援事業所28、行政(市町村在宅医療・介護連携推進主管課・生活保護課、障害福祉課：30、県・市町村社会福祉協議会：10)、等

・調査内容：

- 1) 身寄りがいない方の入退院・入退所について
- 2) 医療的侵襲行為(検査、投薬、注射、手術等の同意)について
- 3) 入院・入所事業の未収金に対する責任について
- 4) 身の回りの支援(日常品の購入)について
- 5) 次の転院、転所先の確保について
- 6) 葬儀や遺留金の処理について
- 7) 緊急連絡先について
- 8) 連携機関について
- 9) 制度活用について
- 10) その他

・調査結果：

1. 調査対象とした、老人福祉施設からの回答は0件、老人保健施設は2件だった。
2. 身寄りがある人に比べて、身寄りがいないという理由で本人の意向に添えない(対応に制限がある)と感じるかの問いに、全体(病院・施設・在宅・行政)の84%が、本人の意向に添えない(対応に制限がある)と感じると答えた。
3. 受け入れ制限について、病院では急性期はほぼ制限がないと回答し、受け入れないは0件だった。回復期・慢性期では制限がないが19%で、一定数の制限があるは52%、保証

人協会などの条件での受け入れは24%だった。受け入れないも5%あった。その他は受け入れ制限がないが53%、一定数制限しているは33%だった。

4. 有料老人ホームは受け入れ制限がないが31%で、一定数に受け入れ制限しているは18%、後見人や保証人協会の関わりを条件に受け入れするが36%あり、受け入れていないも15%あった。

5. 「身元保証がない方の入退院支援ガイドブック」または「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」の病院の認知度は80%と高いが、行政は60%、施設は20%と病院に比べて低かった。

・考察：

1. 身寄りの有無が、本人自身の療養意向に多大な影響を及ぼすことが示唆された。しかし、全体的に回収率が低いため、一般化するには限界がある。

2. 身寄りの有無で、受け入れ先や在宅サービスに影響することが示唆された。

3. 身寄りなしを制限なしで受け入れる機関と、まったく受け入れないという機関が機関別だけでなく、病院であれば回復期や、施設であれば老人福祉施設など、特定の機能別で分かれることが予想された。

4. 身寄りなしに制限をかける機能や機関が増えることは、医療介護連携の弊害になり得ることが示唆された。

5. 身寄りなしの受け入れ制限の問題は、医療介護連携に直接関連する分野だけでなく、間接的に関連する分野も視野にいれる必要性があることが示唆された。

6. 身寄りなしの受け入れ制限を軽減するために必要な条件は、機能別で異なることが予想された。

7. 身寄りなしについてのアンケートは問題把握に有効であり、今後同様のアンケートで経年変化を追う必要があると考える。

※「身寄り問題」ガイドライン案作成

・案作成委員会だけで検討するのではなく、各市町村が主体となり、地域に合わせた議論がしやすくなるよう、身寄り問題における考え方のヒント等を掲載した資料を用意できないか。

・目次案：

I アンケート分析 ・アンケート目的 ・アンケート方法

II アンケート結果 ・アンケートの目的 ・アンケート分析 ・課題

III アンケートの結果の解説 ・アンケートから見えたこと ・県の基本指針

IV ガイドラインを作る際の手順書と抑えるポイント 1 参考資料を抑える（各ガイドラインの整理） 2 招集メンバーについて 3 議論する内容 4 ガイドライン作成で各機関が盛り込むことが望ましい項目 5 評価基準

V おまけ ガイドライン作成マニュアル

令和6年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業  
伊江村 一般住民等説明会 報告書

---

開催日時： 令和6（2024）年11月20日（水）13：30～15：00

---

テーマ： 「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」

---

目的： 一般住民等を対象にした「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」の普及啓発モデルを小規模離島市町村・医療機関等と協働し試行することを目的とする。

---

対象： 伊江村の住民、医療機関・関係機関・介護支援専門員・介護事業所職員等

---

主催： 沖縄県保健医療介護部地域包括ケア推進課  
一般社団法人沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

---

共催： 伊江村住民課

---

開催場所： 伊江村農村環境改善センター 2階ホール  
（沖縄県国頭郡伊江村字東江上75）

---

参加者数： 38名

---

**2024（令和6）年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業**  
**一般住民等説明会「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」要項**

- 1 目的** 一般住民等を対象にした「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」の普及啓発モデルを小規模離島市町村・医療機関等と協働し試行することを目的とする。
- 2 主催** 沖縄県保健医療介護部地域包括ケア課・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
- 共催** 伊江村住民課（介護予防健康講座）
- 3 日程** 令和6（2024）年11月20日（水）13：30～15：00（受付13：00～）
- 4 開催方法** 対面
- 5 会場** 伊江村農村環境改善センター 2階ホール 〒905-0501 沖縄県国頭郡伊江村字東江上75
- 6 参加対象** 伊江村の住民、医療機関・関係機関・介護支援専門員・介護事業所職員 等、約80名
- 7 内容** 「まんがでわかる入退院支援連携の心得～本人、家族へのお願い～」

司会：内間恵美子（伊江村住民課）

1. 開会 05分 13:30～13:35	・オリエンテーション ・開会の挨拶	・司会 ・伊江村住民課 課長補佐
2. 事業説明 講師紹介 05分 13:35～13:40	・伊江村の高齢者の状況 介護予防講座の説明 ・沖縄県入退院支援連携デザイン事業について	・伊江村住民課 ・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 事業担当 樋口美智子
3. はじめに 10分 13:40～13:50	・導入： ① 「命の道しるべ～ぬちしるべ～」(動画 05分) ② 「命のぬちしるべ～いのちの道標パンフレット」の紹介	・講師：樋口美智子
4. 入退院の実際について 20分 13:50～14:10	・概要： ③ 「沖縄県における入退院支援連携に関する基本的な心得について～事例の紹介～」	・講師：當銘由香
休憩 10分 14:10～14:20	トイレ休憩・体操	・伊江村住民課
5. 「入退院の心得」について 20分 14:20～14:40	・本題： ④ 「まんがでわかる入退院支援連携の心得」(動画 10分)	・講師：樋口美智子
6. 質疑応答 15分 14:40～14:55	・質疑応答 ・まとめ	・司会 ・伊江村住民課
7. 閉会 05分 14:55～15:00	・閉会の挨拶 ・アンケート記載	・司会 ・伊江村住民課

※ 配布資料：県MSW協会が印刷し持参

資料1 「命のぬちしるべ〜いのちの道標パンフレット」

資料2 「沖縄県における入退院支援連携に関する基本的な心得」

資料3 「まんがでわかる入退院支援連携の心得」

## 8 参加費 無料

## 9 広報

・伊江村役場 住民課 地域包括支援センター：チラシ配布、防災無線

## 10 申込方法・申込期限

・事前申し込不要

・伊江村役場 住民課 地域包括支援センター（担当：内間恵美子） 0980-49-2002

## 11 個人情報の取扱いについて

個人情報の保護に関する法律の施行に伴う措置として「参加者名簿」等に記載された個人情報は、当会議の運営管理の目的のみに使用し、他の目的に使用しません。

## 12 お問い合わせ先

・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 樋口 美智子 携帯電話 090-8404-2685  
当銘 由香 携帯電話 090-1941-5720

E-mail : m.higuchi@okiu.ac.jp

・伊江村役場 住民課 地域包括支援センター（担当：内間 恵美子） 0980-49-2002  
携帯電話：090-3794-1824

※準備する物：

### ●伊江村

- ・机、椅子
- ・パソコン：データはパソコンに落としておく
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・動画配信：YouTube、DVD
- ・マイク
- ・参加者受付名簿：名前、年齢、字名、職場名
- ・資料入れ手提げ袋、ティッシュ
- ・縦横垂れ幕

### ●MSW協会

- ・データはUSBに落として持ち込む
- ・配布資料：持ち込む>>当日、事前に机に配布しておく
- ・アンケート用紙：性別・年代・字名・回答は○を付ける形式
- ・筆記用具：鉛筆

2024（令和6）年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業  
「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」一般住民等説明会

日時：令和6（2024）年11月20日（水）13：30～15：00  
（受付13：00～）

会場：伊江村農村環境改善センター 2階ホール

プログラム

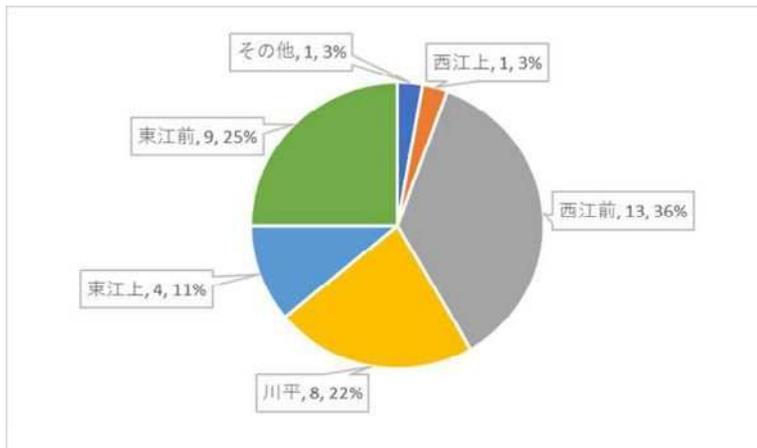
1. 開会            オリエンテーション  
                    開会の挨拶・講師紹介
2. 事業説明       伊江村の高齢者の状況について  
                    介護予防講座について  
                    沖縄県入退院支援連携デザイン事業について
3. 「命の道しるべ～ぬちしるべ～」（動画視聴）  
                    「命のぬちしるべ～いのちの道標パンフレット」について
4. 「沖縄県における入退院支援連携に関する基本的な心得について～事例の紹介～」
5. 「まんがでわかる入退院支援連携の心得」（動画視聴）
6. 質疑応答・まとめ
7. 閉会            閉会の挨拶  
                    アンケート記載

令和6年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業 伊江村一般住民等説明会  
「沖縄県入退院支援連携に関する基本的な心得」

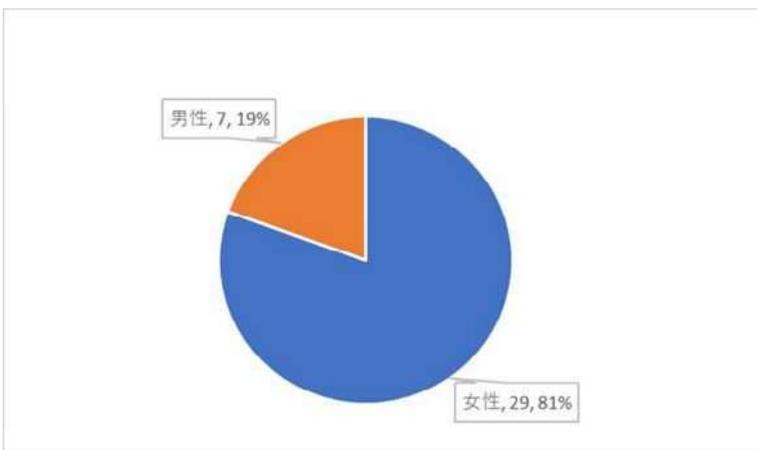
参加者アンケート回答結果

説明会参加者38名・回答数36名／回答率94.7%

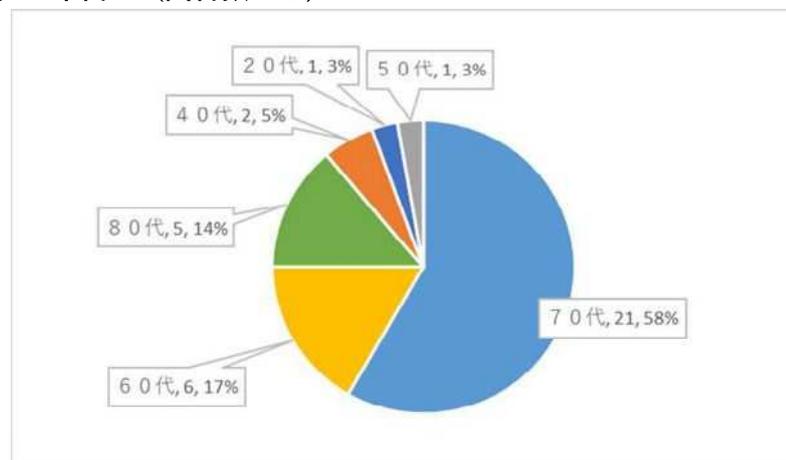
基礎項目1 居住地区 (回答数36)



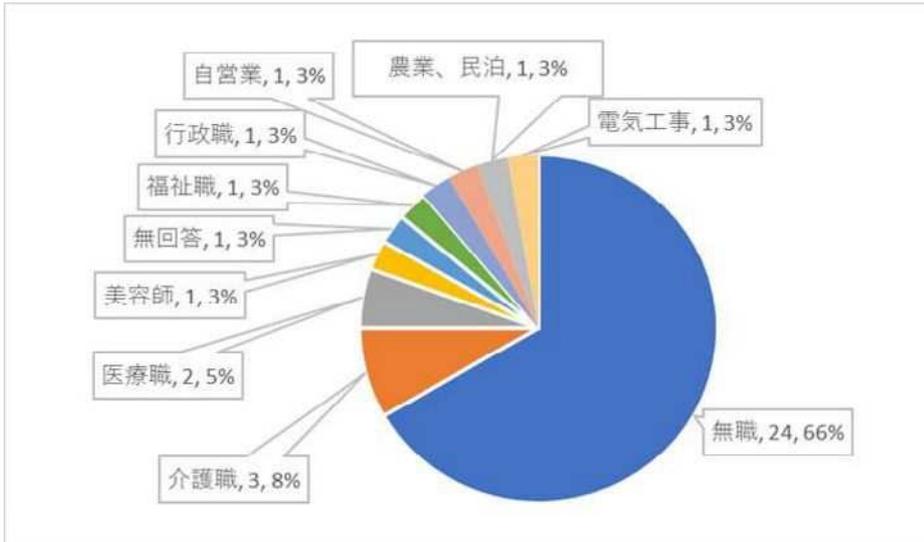
基礎項目2 性別 (回答数36)



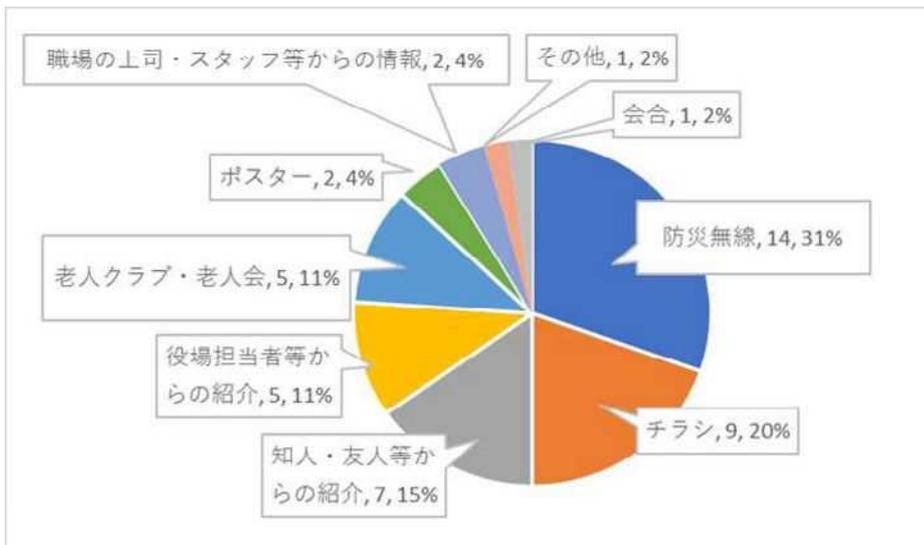
基礎項目3 年代 (回答数36)



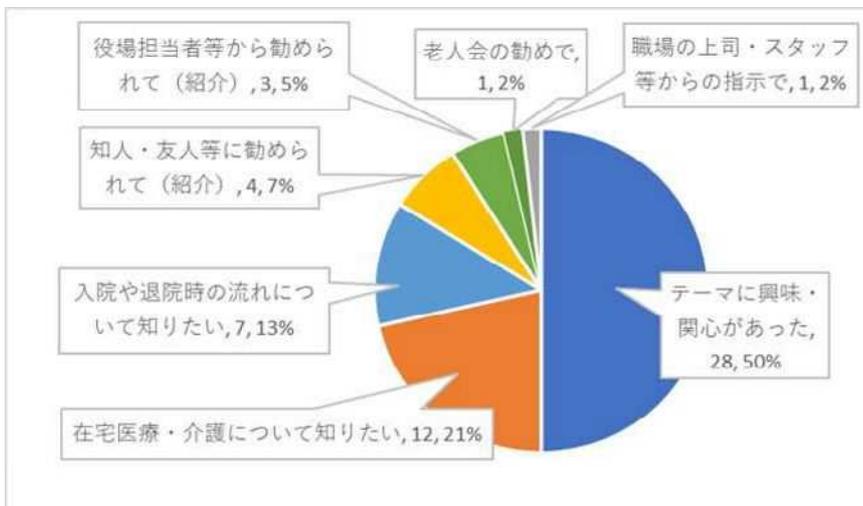
基礎項目 4 職種等 (回答数 36)



設問 1. 本日のゼミナールを何(どこ)でお知りになりましたか? (複数回答) (回答数 46)



設問 2. 本日ご来場された動機を教えてください。 (複数回答) (回答数 56)



設問3. 本日の講演の内容はどうでしたか?感想などをお聞かせください。(回答数29)

	回答
1	漫画や動画を使った内容で理解しやすかった
2	知識として知っていても祖父母など身近な人に対し話題に出しにくいなと思っていました
3	資料でまずは本人に知ってもらって元気なうちから話し合う機会が持てたらいいなと感じました。
4	わかりやすかったです。
5	とても勉強になりました。
6	ソーシャルワーカーも名前を知っているだけなのでいろいろ勉強になりました。
7	わかりやすく良かったです。
8	とてもよかったです。今後に活かしていきたいです。
9	今の自分が知りたいことだったので勉強になりました。
10	私も一人で生活しています。今の頃は仕事(会社)パートで働いていますが、いつ入院するか分かりませんが今日お話はとってもよく自分のためになりました。
11	良くわかりました。ありがとうございます。
12	動画視聴があり分かりやすかったです。施設内研修で取り入れられたらと思いました。
13	経験したことでしたのでソーシャルワーカー病院、島での人生の幕を閉じたいと本人の希望通りに生活が出来、終われたことに感謝です
14	入院、退院のシステムが良くわかりました。
15	私達介護従事者にとっても大変勉強になりましたし、再確認が出来ました。色々な冊子を頂きましたので参考にして活用していきたいです。
16	伊江村の高齢化率を確認することができた。入退院につながらないように、日頃から運動を取りくんでいきたい。
17	自分の介護のための勉強になりました。
18	良かったです。症状(入院の)に応じて転院することについて理解した。
19	これからの自分の流れについて説明を元にいろいろと良かったです。ありがとうございます。
20	娘と色々今後の事を話したいと思いました。1人暮らしで元気なので何も考えていなかった。良かった。命しるべに記入して玄関に置いておきます。
21	本人の意思の確認が重要なことが分かった
22	良かった。
23	大変勉強になりました。
24	よし
25	勉強になりました。

26	とても良かったです。
27	命しるべ、入退院支援連携に関する基本的な心得、まんがでわかりやすくとても良い勉強になりました。感謝です。
28	とっても参考になりました。漫画動画わかりやすくてよかったです。
29	全般的に良かったです！

**設問4. 今後、取り上げて欲しいテーマなどがありましたらご記入ください。（回答数9）**

	回答
1	薬に関する内容について
2	何日も自宅にこもることにならない為、リハビリが続けられるための施設がほしいです。特
3	介護の実践（具体的におむつの変え方や体位変化（ベッドからの起こし方、車いすからの移動等）学びたい
4	時々、話が聞きたいです。
5	今後家族で話し合い必要となります。ソーシャルワーカー話し聞きたいです。
6	何でも受けてみたいです。よろしくお願いします。
7	なし
8	本日頂いた資料を勉強して今後の自分の健康に気配りしたいです。ありがとうございました。
9	重度医療について